

# 企業訪問 循環型最前線レポート

大天工業（株）

徹底した機械選別で、再資源化、  
建設混合廃棄物専用の工場、シンエセンター  
緑化など環境アセスにも力を入れている

大天工業（株）



循環型社会の構築に向けて、建設系産業廃棄物の再資源化は依然として大きな課題です。ビルや家屋の解体では、床材、コンクリートがら、鉄筋などの金属類は、大半が解体選別され、再資源化されていますが、壁土や瓦くず、廃プラスチック、木片など混合廃棄物の処理には大変な労力と設備を要します。

解体選別から混合廃棄物の機械選別まで、一貫したシステムで再資源化に取り組む大天工業株式会社（大府市横根町大猿尾179／青本憲泰代表取締役社長）を訪問し、解体事業部環境課 津隈良仙係長にお話を伺い、同社が誇る最新リサイクル工場シンエセンターを見学しました。



津隈係長

同社は昭和45年にダンプを利用しての運搬事業を主に土木工事関係を行う会社として創業しました。その後、解体事業に乗り出し、廃材処理なども一貫して行うリサイクル事業へと展開し、平成4年12月にはリサイクルプラントを開設し、資源の有効利用、環境保全にいち早く対応しています。このリサイクルプラントは産業廃棄物の最終処分量を抑える目的でつくられ。廃材を資源として再活用する道を進めるほか、コンクリートの再生砕石RC-40を生産。公共工事などに利用されています。

また、環境基本法の制定で、さまざまなりサイクル法、資源有効利用促進法が施行される中、国が定める2010年度コンクリート、アスファルト、木材の



代表取締役社長／青本 憲泰

■本社／〒474-0011 大府市横根町大猿尾179

■設立／昭和45年12月

■取得許可／収集運搬：愛知県・名古屋市・豊橋市・岡崎市・豊田市

中間処理（焼却、破碎、選別他）：愛知県

■許可業種／土木工事業、とび・土工・コンクリート工事業、  
建築工事業、ほ装工事業、水道施設工事業、  
機械器具設置工事業

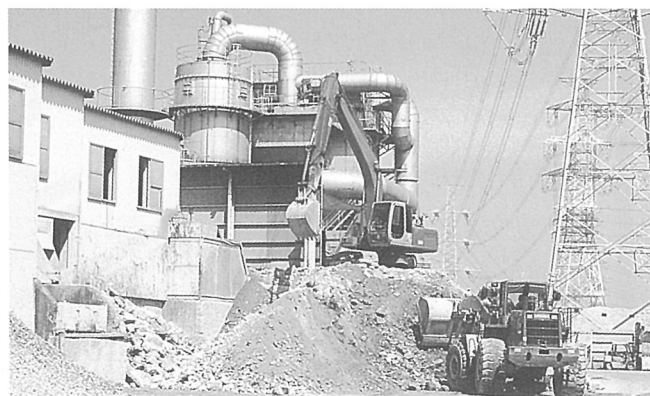
リサイクル率95%の目標に向け、同社で平成12年5月に本社に隣接したところに本格的な再資源リサイクル工場シンエセンター（大府市横根町新江15-11）を建設し、建設廃棄物で最も困難とされている混合廃棄物の再資源化に着手しました。

シンエセンターの敷地は13,100m<sup>2</sup>で、中央部に収集運搬車両のトラックスペース、東側に解体破碎後のコンクリートがら、木材のストックヤードがあり、再資源化の前処理を重機等を使い、破碎していました。

北側の敷地いっぱいにはリサイクル工場のメイン施設の建屋があり、混合廃棄物を高精度で機械選別する設備がベルトコンベアーで一体化したラインが並び、人力では分別不可能と思われる処理残さ（混合ミンチ）の選別を実現させています。コンクリート、アスファルト、木材の3品目のほか、金属くずはもちろん、壁土の土とわらまで選別を可能にし、選別後の壁土は、0~5mmの骨材を混入することにより強度のあるリサイクル改良土として商品化されています。

西側には、廃プラスチックなどを分別した資源のストックヤードがあります。ほとんどが再資源化されていますが、最後に残った廃棄物は最終処分業者に引き渡されます。

同社の具体的な処理能力としては



①焼却施設（紙くず、木くず、繊維くず）：  
5t/時間

②選別（木くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず）：  
20m<sup>3</sup>/時間

③選別（廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず）：  
40m<sup>3</sup>/時間

④選別（廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず）：  
50m<sup>3</sup>/時間

⑤破碎施設（金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類）：  
100t/時間

⑥破碎施設（紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類）：  
157t/時間



同社は「ここまでやるから大天です」を合言葉に、土木工事、解体工事の技術向上に努めるとともに、廃材処理、リサイクル部門にも力を傾けています。また、工場の緑化や土壌、排水、衛生管理など環境アセスメントにも積極的に取り組んでいます。愛知県内一円を活動エリアとして、人々、地域、そして地球の未来を考え、信頼と実績を糧に明日を見据えた着実な歩みで地域貢献を目指している大天工業でした。